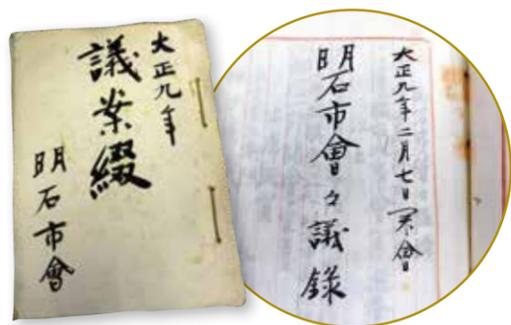


# 明石市議会100年のあゆみ

## 1919-1942

[ 大正8年～昭和17年 ]

- 大正**
- 8年** ・明石町が市制を施行し、明石市が誕生(11月1日)  
・記念祝賀会を明石公園で5日間開催
  - 9年** ・市立第3尋常小学校講堂で第1回市議会を開催  
・市の人口3万3,107人(第1回国勢調査)
  - 10年** ・市立高等女学校(現県立明石南高等学校)開校  
・明石川が氾濫
  - 11年** ・私立播陽幼稚園の廃止に伴い、市立として存続  
・市立明石病院(伝染病院)開設
  - 12年** ・市立明石中学校(現県立明石高等学校)開校  
・大蔵谷清水に市営住宅21戸を建築(市内で初)  
・明石～姫路間に神戸姫路電鉄(現山陽電鉄)が開通
  - 13年** ・市庁舎が竣工(西魚町)
  - 14年** ・市立第2および第4尋常小学校を、人丸、大観尋常高等小学校に改称  
・市の人口3万7,244人(第2回国勢調査)
  - 15年/昭和元年**  
・明石商業会議所(現商工会議所)設立  
・明石公園で全国菊花展覧会開催



**昭和**

- 2年** ・五分一町に市営市場開設  
・上ノ丸、太寺土地区画整理事業に着手(市内で初)
- 3年** ・市水道事業開始  
・藤江競馬場で競馬を開催  
・大明石町に明石警察署庁舎新築
- 4年** ・市制10周年、市歌を制定
- 5年** ・天体測量に基づく新子午線標識を人丸山に建設  
・常備消防隊を設置  
・市の人口3万8,956人(第3回国勢調査)
- 6年** ・上水道施設が完成し給水開始  
・直良信夫氏が八木海岸で古代人の左腰骨を発見
- 7年** ・豪雨により明石川決壊、明治橋が流失
- 8年** ・神明国道(現国道2号)が開通  
・夏の甲子園で明石中学野球部が中京商業と延長25回の末、惜敗  
・明石観光協会が創立
- 9年** ・室戸台風による大風水害発生
- 10年** ・省線電車(現JR)が明石まで延長開通  
・市の人口4万2,644人(第4回国勢調査)
- 11年** ・藤江に明石保養院開設
- 12年** ・市立塵芥焼却場を茶園場町に建設
- 13年** ・神戸の水害で神明間の陸上交通途絶
- 14年** ・警防団令に基づき明石市警防団設置
- 15年** ・明石郡林崎村に川崎航空機明石工場開設  
・市の人口4万7,751人(第5回国勢調査)
- 16年** ・市内に67町内会を設置  
・米の配給制実施
- 17年** ・明石郡林崎村と合併(人口6万8,682人)

### 1919(大正8年)～



大正8年 新たに掛け替えられた市役所の表札前に立つ初代市長(左から5番目)と議員

大正15年  
第1回菊花展覧会  
第2回菊花展には全国から42万人が鑑賞に訪れたという記録があります。



**初代市議会議長 青木雷三郎**

1881年(明治14年)11月岡山県生まれ。中央大学法律科で学んだ後、弁護士を開業。市制施行後最初の選挙で、市議會議員となり、初代議長や第5代市長を務めました。



市制施行祝賀アーチ(明石公園)



昭和4年 明石市歌ができる



大正10年 明石市章が決まる

### 1926(昭和元年)～



昭和8年8月19日、全国中等学校優勝野球大会(夏の甲子園)の準決勝で、明石中学が中京商業と対戦し、歴史に語り継がれる延長25回の激闘の末、0-1で惜しくも敗れました。この延長25回の試合は、春・夏の甲子園や都道府県予選なども含めて、これまでの高校野球の歴史の中で最も長い試合となっています。



西魚町(現在の町2丁目)にあった旧庁舎



# 1943-1967

[ 昭和18年～昭和42年 ]

昭和

- 18年 ・ 明石郡玉津村との合併を県に申請(不成立)
- 19年 ・ 統制令により明石市農業会、明石浦漁業会、林崎漁業会、東明石浦漁業会設立
- 20年 ・ 6回にわたる空襲で市街地の多くが焼失  
・ 豪雨により全市で浸水被害発生
- 21年 ・ 省線電車(現JR)西明石駅開設  
・ 市復興局を設置  
・ 市選挙管理委員会が発足  
・ ヘレン・ケラーが附属小学校で講演
- 22年 ・ 学校給食を市内小学校で開始  
・ 6・3制の公布により大蔵、錦城、衣川、望海の各新制中学校が誕生  
・ 復興明石まつり開催  
・ 市の人口5万7,390人(第6回国勢調査)  
・ 菊花展復活
- 23年 ・ 明石市警察署、明石市消防本部、消防署発足  
・ 県市共催水産博覧会開催

- 24年 ・ 市営葬祭場、市営家畜市場が業務開始  
・ 明石駅前大火が発生  
・ 第1回市営競馬開催  
・ 西魚町から出火し市復興局・私立診療所に延焼  
・ 明石銀座が誕生  
・ 市制実施30周年記念式開催
- 25年 ・ 市営第1回明石競輪を開催  
・ ジェーン台風が明石付近に上陸  
・ 市民病院業務開始  
・ 市の人口6万5,642人(第7回国勢調査)
- 26年 ・ 明石郡大久保町・魚住村、加古郡二見町と合併、人口は約11万2,000人に  
・ 市営バスが営業開始  
・ 明石商工会館竣工し明石デパート(現らぼす)開業  
・ 市社会福祉協議会が創立
- 27年 ・ 市役所職員定数の大幅減員による行政整理の実施  
・ 市教育委員会発足

- 28年 ・ 市立明石商業高等学校が創立  
・ 第1回明石まつり開催
- 29年 ・ 模擬市会を開催(明石市連合青年団主催)  
・ 明石～岩屋間のフェリーボート運航開始
- 30年 ・ 神戸市との合併に関する住民投票(反対多数で合併は不成立)  
・ **議員定数を36名から24名に減員**  
・ 市の人口12万200人(第8回国勢調査)
- 31年 ・ 第11回国民体育大会  
軟式野球、軟式テニス、バレーボール、自転車競技を明石会場で開催  
・ **市議会は市が地方財政再建促進特別措置法の適用を受けることを多数決で議決**  
・ 自動交通信号機を初めて明石駅前に設置  
・ 市が加古郡阿閉村(現播磨町)へ合併を申し入れ(不成立)
- 32年 ・ 市立水族館が中崎海岸に開館  
・ 明石城隅櫓(巽・坤)が国の重要文化財に指定
- 33年 ・ 西明石～姫路間(山陽本線)の電化工事完成  
・ 林下溝海岸の学術発掘調査でアカシゾウ化石発掘  
・ 市内で初めてのスーパーマーケットが東仲ノ町に建設

- 34年 ・ 市制施行40周年を記念して「明石市民の歌」を制定
- 35年 ・ 市立天文科学館を時の記念日(6/10)に開館  
・ 市立酪農センター設立  
・ 核非武装都市を宣言  
・ 市の人口12万9,780人(第9回国勢調査)
- 36年 ・ 国鉄魚住駅完成
- 37年 ・ 林崎に県中央児童相談所が開設
- 38年 ・ 西明石駅前地区土地区画整理事業着手  
・ 公明選挙都市、世界連邦平和都市を宣言
- 39年 ・ 初の住居表示を実施  
・ 東京オリンピックの400mリレーに浅井浄選手が出場  
・ 明石ステーションデパート開館
- 40年 ・ 大久保町石ヶ谷にゴミ処理場完成  
・ 明舞団地工事着手  
・ 市の人口15万9,299人(第10回国勢調査)
- 41年 ・ マリンセンター営業開始  
・ 中八木海岸でアカシゾウ化石の発掘調査
- 42年 ・ 全国初の「野つぼ」等危険防止条例を制定

## 1943 (昭和18年)～



昭和20年 明石に計6回の空襲  
昭和20年1月から終戦までの間に、明石市は6回の空襲を受けました。市内の約80%の家屋が被害を受け、約1,500人が犠牲となりました。



昭和24年2月20日 明石駅前大火の跡



昭和22年 復興明石まつり



昭和26年 市営バス営業開始



昭和26年  
明石市が明石郡大久保町・魚住村、加古郡二見町と合併



昭和29年 フェリーボート就航



昭和30年  
神戸市との合併について住民投票を実施



昭和35年  
天文科学館開館(左)  
市酪農センター完成(下)



昭和32年  
市立水族館開館



昭和39年  
明石ステーションデパート開館



# 1972-1975

[ 昭和47年～昭和50年 ]

昭和

- 47年 ・山陽新幹線 新大阪一岡山間の開通に伴い、新幹線西明石駅開業
- ・明舞サービスコーナー開設
- ・市消防庁舎が中崎1丁目に完成し、消防本部、消防署を移転
- ・コミセン第1号を大蔵中学校内に開設
- ・マリンセンター、市立水族館閉鎖

- 48年 ・市有地売買、市民会館建設にからむ収賄容疑で吉川前市長らを逮捕
- ・環境保全条例を制定
- ・市内初の盲人用信号機を国鉄明石駅前に設置
- ・市立酪農センター廃止



昭和48年 市庁舎屋上から望む市街地

- 49年 ・市立農業センター発足
- ・江井島サービスコーナー開設
- ・市街化区域全域の都市計画の決定
- ・野々池貯水池完成
- ・市立及び県立図書館、中央公民館開館(明石公園内)
- ・文芸祭を中央公民館開館記念として開催、以後毎年実施

- 50年 ・コミュニティ元年を宣言
- ・高校入試に総合選抜制度導入
- ・市機構改革でコミュニティ課を全国で初めて設置
- ・3支所の名称を市民センターに改称
- ・提案された水道条例を委員会で修正
- ・市の人口23万4,905人(第12回国勢調査)



昭和50年 5月定例会市議会の風景

1972 (昭和47年)

1973 (昭和48年)

1974 (昭和49年)

1975 (昭和50年)



新幹線西明石駅開業



昭和48年 新春の抱負を語る各派代表者会



市立図書館開館



大蔵コミセンオープン



環境保全条例を審査する総務委員会



決算委員会の審査状況

**提案された水道条例を  
委員会で修正**

今回提案された水道条例改正については、現行の状況では値上げも止むを得ないという面はあるにしても、五月に議決された市バス運賃値上げに引きつづいており、インフレと不況にあえぐ市民にとっては、日常生活に大きくひびく問題であるので、委員会として何とか打開のみちはないものかと真剣に討議を重ねました。

また結果、低所得者の負担と大衆の環境衛生の面から考えて、使用料のうち基本料金を五立方メートル以下を「二百三十五円」を「百四十円」に据置き、湯屋用料金「四十六円」を「四十円」に修正することを採決により賛成多数で決め、つづいてその部分をのぞく原案も賛成多数で承認いたしました。

(市議会だより 第23号)

# 1976-1979

[ 昭和51年～昭和54年 ]

昭和

- 51年 ・コミュニティ仲間づくり銀行設立 (昭和57年明石コミュニティ創造協会に吸収)
- ・明姫幹線部分開通 (小久保～市道藤江23号)
- ・国道2号拡幅工事完了(銀座～明石川)



公設地方卸売市場設置予定の甲池

- 52年 ・新大久保清掃工場運転開始
- ・公設地方卸売市場開場
- ・明石公園旧競輪場、県下初のアマ自転車競技場に再生
- ・明石商工会議所創立50周年と新ビル完成を祝う
- ・医師会による夜間救急診療始まる (在宅輪番当直制を実施)
- ・大久保駅前土地区画整理事業着手

- 53年 ・市立明石商業高等学校を魚住町長坂寺の新校舎へ移転
- ・市が25万人以上の都市に必要な建築確認業務を開始
- ・中部配水場開設
- ・山陽電鉄高架化事業(第1期)に着手
- ・明石初の梅林が大久保町松陰の市農業センター内に開園

- 54年 ・市医師会の協力で病院群輪番制(2次収容)スタート
- ・石ヶ谷公園の整備着手(建設省の「カルチャーパーク」建設対象に指定)
- ・県立明石南高等学校が夏の甲子園に初出場
- ・南二見に明石海浜プール開設
- ・西明石サービスコーナー開設

**市議会を見学して**  
西明石南町三丁目  
中屋 祥子

海の香のする市議会を見学して、私たちの生活にも関係の深い市政の概要や議会の仕組みを細やかに説明していただき、市政をより身近かに感じることができるようになりました。

議員さん達の活躍ぶりをはじめ、80年代の明石市政の進路を知り、あやふやだった自己意識を確かなものに、一市民として今後一層市政に関心を持ち続けたいとの思いのうちに市議会を後にしました。

**家庭学級が議会を訪問**

1月29日、花園校区の家庭学級の訪問を受け、市議会事務局から職員2名が出席して、議会のしくみや市政の概要を説明しました。訪れた主婦30数名は、メモをとるなど熱心に耳を傾け、議会への理解や知識を深めました。また、本会議場や委員会室などの施設見学も行ないました。

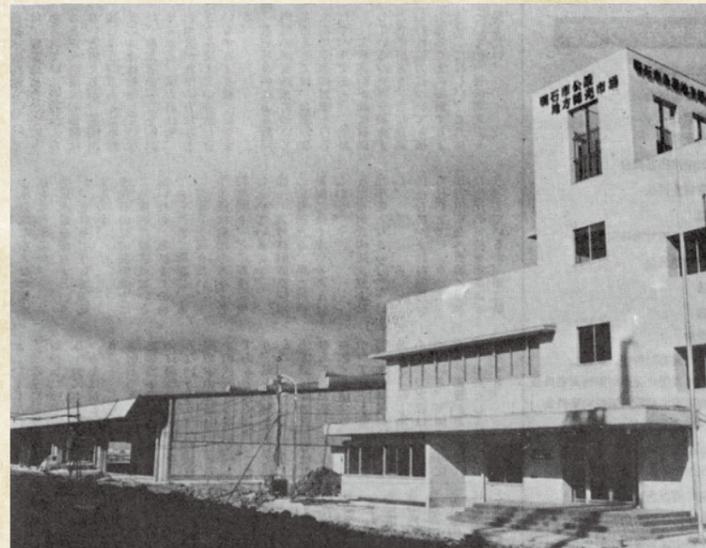
(市議会だより 第44号)

1976 (昭和51年)

1977 (昭和52年)

1978 (昭和53年)

1979 (昭和54年)

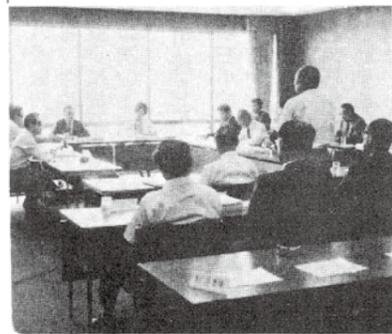


完成間近の公設地方卸売市場

### 住居表示で初の公聴会開く

九月十日、西新町、王子地区の住居表示に関する変更請求に対し総務常任委員会の公聴会が開催され、賛否各一名の公述人の発言がありました。

委員会は町内の意見が円満にまとまったと認め、全員の賛成で原案どおり可決しました。



(市議会だより 第32号)

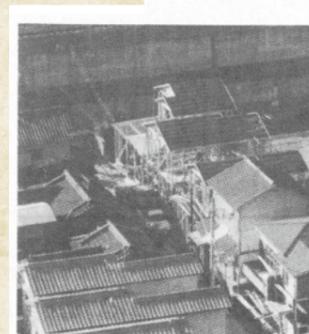
### 建築確認 4月から実施

十二月定例市議会は、十二月六日から二十七日までの会期中で開かれ、市長提出議案三十四件を審議し、それぞれ原案どおり可決、報告案五件を了承しました。

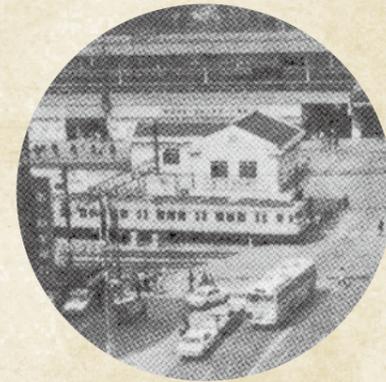
閉会中の継続審査となっておりました決算認定議案五件も、慎重審査の結果、認定しました。

議題は、二件を採択、四件を閉会中に審査することとして、関係委員会に付託しました。

可決された主な議案の内容は次のとおりです。



住みよい街を(市議会だより 第33号)



高架になる前の山陽電鉄明石駅

**市の総面積49.23K㎡に**

二見町西二見地先において、定により、あらたに生じたて、県が施行していた東播土地として確認し、名称は磨港港湾区域内公有水面埋すである字名、二見町西立工事の竣工によって、今二見字西ノ町及び字出開地まで水域であった本市の区に編入するものです。

この土地、約一万六千六百平方メートルは、四十九・二三平方キロはとなりま。

(市議会だより 第33号)



# 1984-1987

[ 昭和59年～昭和62年 ]

昭和

- 59年 ・市の窓口業務のオンライン化を開始
- ・高齢者ハローワークセンター開設(船上町)
- ・県立成人病センター開設
- ・「ラブホテルおよびパチンコ屋の建設等に関する指導要綱」を施行
- ・市交通部の新庁舎が和坂に完成
- ・西明石駅で寝台特急富士が暴走脱線、ホームに激突、23人が負傷
- ・保健センター(現北庁舎)開設

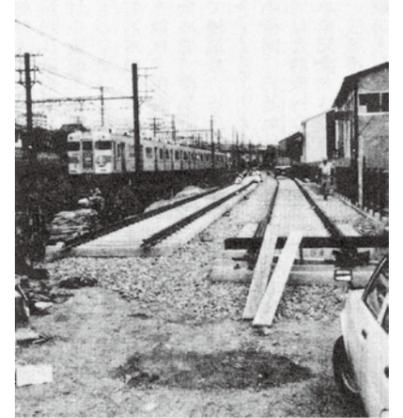
- 60年 ・明石原人の再発掘調査開始(大久保町八木の海岸)
- ・魚住北公園開園
- ・「小規模集合住宅指導要綱」を施行ワンルームマンションを規制
- ・市議会本会議の様子を行政情報コーナーにあるテレビで放映
- ・山陽電鉄高架化事業(第2期)に着手
- ・市の人口26万3,363人(第14回国勢調査)

- 61年 ・考古資料である「鷗尾(しび)」を市文化財に指定
- ・和坂斎場改築(炉は無煙、無公害型)
- ・明石海峡大橋起工式
- ・日本標準時制定100周年を記念し、「あかし子午線まつり」を開催
- ・パンクチュアル・シティー(時間厳守都市)宣言
- ・松江海岸で産卵されたウミガメの卵が姫路市立水族館で人工ふ化
- ・中高年齢労働者福祉センター(サンライフ明石)開館

- 62年 ・谷八木海岸でウミガメ81匹ふ化
- ・県立明石高等学校が甲子園に春・夏連続出場
- ・二見人工島に南二見会館開館
- ・明石市公文書の公開等に関する条例を制定



ウミガメ



仮線路敷設で本格化した山陽電鉄高架化事業

1984(昭和59年)

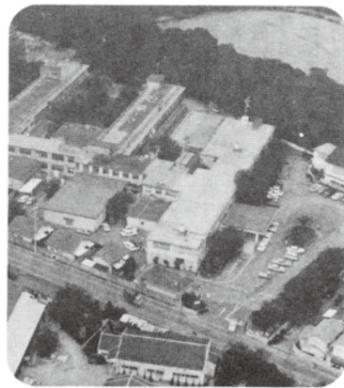
1985(昭和60年)

1986(昭和61年)

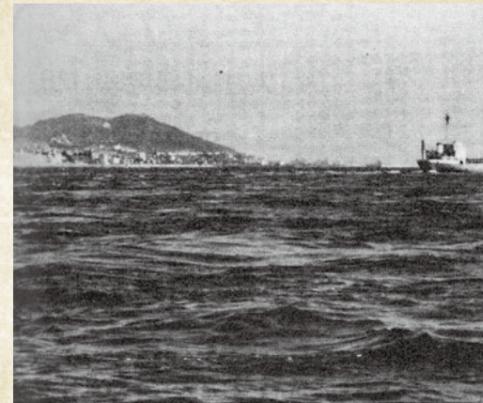
1987(昭和62年)



保健センター開設



△ 環境に恵まれた現在の市民病院



待望の架橋建設へ動き出した明石海峡



この混雑の解消へようやく事業が本格化(山陽電鉄明石駅前)

**直良信夫死去**  
直良信夫は、一九三二(昭和六)年四月十八日に大久保町の八木海岸で化石人骨を発見した。その後「明石原人」の発見者として苦難の道歩んだ。「原人・現代人」の論争のなかで、八五年約四〇年ぶりの発掘調査が行われ、直良信夫の業績は再評価された。明石市は同年度の「文化功労賞」を贈った。十月一日に行われた表彰式には、病床の直良に代わって娘の美恵子が出席。式の直後、直良危篤の連絡が入り、二日、島根県出雲市で死去。享年八三。

(明石市史 現代編I)

**市民病院の全面改築 早期実現へ初の審査**  
五月臨時会で新たに設置された、市民病院改築整備特別委員会で、初めての審査をしました。

(市議会だより 第71号)



大蔵海岸の整備構想 都市型海浜ゾーンへ

大蔵海岸の整備構想がまとまる

**パレホ市を友好訪問**

本市の姉妹都市である米国パレホ市へ、住野議長を名譽団長とする二十七名の親善使節団が、六月十二日友好訪問し、交流の輪を広げて、二十一日帰国しました。

今回の訪問の目的は、パレホ市に新設された海洋自然動物公園「マリワールド」の開園式に出席するなど友好を大いに深めることにあります。

マリワールドは、世界的な動物ショーとサファリ公園で、子供から大人まで楽しめる施設として開園されました。

パレホ市へは、米国内の百を超える候補地の中から、二年半にわたる交渉の結果、誘致されたもので、カトリウ市長をはじめ、パレホ市の観光にかける情熱の成果といえます。

一行は、同公園の開園を祝った後、市内の一般家庭に滞在して、心と心のふれあう親善活動を展開し、友好を深めました。

公園の開園を祝う

(市議会だより 第67号)